

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 小野綾子

本論文は、熊本県球磨方言の動詞と助詞を、膨大なデータに基づいて、詳細に記述したものである。本編及び「資料編(その1) <テキスト>」と「資料編(その2) <語彙>」から成る。

筆者は約500分の録音資料を文字化した。少数言語の研究や方言の研究において、これ程大量の文字化の例は世界的にも極めて希であると言える。この文字化自体が大きな貢献である。文字化した資料の約10分の1を「資料編(その1) <テキスト>」として提示する。単語を形態素に分け、各形態素に品詞を示し、共通語のグロスを付け、更に各文に共通語の訳を施す。また、必要に応じて、音声的側面あるいは文法的側面について、コメントを加える。なお、この約500分の資料は民話、風俗、習慣、歴史などに関するものである。民俗学的な研究にも、貴重な資料となるであろう。

本編は4つの章から成る。「第1章 導入」では、方言分類における球磨方言の位置、社会的・文化的背景、音素・品詞の概略、本研究で用いた資料などについて述べる。

「第2章 動詞」では、まず、動詞を以下の3つに分ける。(i) 子音動詞：語根が子音で終わるもの。(ii) 母音動詞：語根が母音で終わるもの。(iii) 特殊動詞：子音動詞の活用と母音動詞の活用の両方を持つもの。更に、子音動詞を語根末の子音によって10のグループに、母音動詞を語根末の母音によって5つのグループに分ける。特殊動詞は1つのグループである。又、動詞を単独動詞と複合動詞に分ける。動詞の活用の記述には、日本語の共通語の先行研究を参考にした下記の分類を用いる。

- (a) 基本形シリーズ。(a-1) 言い切り形：過去、非過去、意志、推量、命令、禁止など。(a-2) 非言い切り形：連用形、テ形、否定、同時進行、条件、逆接など。
- (b) 派生形シリーズ。(b-1) 使役シリーズ、(b-2) 受け身シリーズ、(b-3) 可能シリーズ、(b-4) 否定シリーズ、(b-5) 丁寧シリーズ、(b-6) 願望シリーズ。

派生形シリーズの各シリーズに、言い切り形と非言い切り形がある。この分類に基づき、子音動詞の10のグループ、母音動詞の5つのグループ、特殊動詞、複合動詞の活用表を挙げる。更に、各活用範疇(過去、連用形など)の意味と用法を述べ、例文を挙げる。

「第3章 助詞」では、助詞を格助詞、副助詞、終助詞、接続助詞に分類し、意味と用法を記述して、例文を挙げる。「第4章 結語」では、本論文を概観し、今後の展望を述べる。

本論文は、膨大な資料に基づいており、特に動詞の形態論的記述は極めて詳細である。各活用形や助詞の意味の記述と、活用体系の捉え方にはなお考えるべき点があるが、従来の方言研究の水準を超える労作であることは疑いない。よって、審査委員会は本論文が博士(文学)の学位を授与するに十分値するものと判断する。